

会 議 録

会 議 の 名 称	第 2 回 本 荘 地 域 協 議 会
開 催 日 時	平成 17 年 11 月 7 日 (月) 午 後 3 時 4 0 分 (～ 5 時 2 5 分)
開 催 場 所	本 荘 由 利 広 域 行 政 セ ン タ ー 「 学 習 ホ ー ル 」 (3 階)
出 席 者 氏 名	「 出 席 者 名 簿 」 の と お り
欠 席 者 氏 名	「 出 席 者 名 簿 」 の と お り
<p>会 議 次 第</p> <p>1 . 開 会</p> <p>2 . 区 長 挨 拶</p> <p>3 . 会 長 挨 拶</p> <p>4 . 説 明 ・ 意 見 聴 取</p> <p style="padding-left: 40px;">由 利 本 荘 市 総 合 発 展 計 画 基 本 構 想 ・ 基 本 計 画 (案) に つ い て</p> <p style="padding-left: 40px;">平 成 1 8 年 度 の 事 業 内 容 [本 荘 地 域] (案) に つ い て</p> <p>5 . 連 絡 事 項 に つ い て</p> <p>6 . 閉 会</p>	
会 議 の 経 過	別 紙 の と お り

会議の経過

第 2 回 本荘地域協議会

平成 17 年 11 月 7 日 (月)
午後 3 時 40 分 開会

1 . 開会

2 . 区長挨拶

3 . 会長挨拶

- ・ 地域自治区の設置等に関する条例第 9 条第 3 項の規定により会が成立していることの宣言
(協議会委員 48 名のうち 36 名が出席)
- ・ 資料の確認
- ・ 全体会方式で進めさせていただくことの委員からの了承
- ・ 総合発展計画基本構想(案)については、条例に基づく意見聴取であることの説明

4 . 説明・意見聴取(ゴシック部：委員からの意見、質問等)

由利本荘市総合発展計画 基本構想・基本計画(案)について

- ・ あいさつ(猿田企画調整部長)
- ・ 総合発展計画の概要、スケジュール等について説明(渡部企画調整課長)
- ・ 総合発展計画の基本構想(案)、基本計画(案)について説明(大庭参事)
- ・ 委員...事前に送られた資料に目を通してきたが、いま、実際に説明を聞いた後では受け止め方が大きく異なり、これから、基本構想などをどれくらい理解していけるか疑問を持ちました。「総合発展計画」と「新市まちづくり計画」は同じ理念のものだと言われました。私がこの説明を聞く前の考えはどっちを見ても同じようなものに見えてなりませんでした。今回説明を受けてある程度頭に入りましたが、一度では理解しきれないと思いますのでもう少し勉強させていただきたいと思います。
また、行政の皆さんが作ったものは堅い(わかりにくい)なと思いました。
- ・ 渡部企画調整課長(回答)
どちらの計画書を見ても同じような内容だとのことですが、先程来、何度か説明しておりますとおり、どちらの計画も整合性をもっておりますので大きく変わることはないことをご理解ください。「新市まちづくり計画」の中で記述の足りなかった部分、特に観光の部分などで少し追記している部分もありますし文言の整理もしてありますが、皆様のご意見も入れながら再度整理してまいりたいと考えております。「新市まちづくり計画」につきましては合併特例債活用事業を、「新市まちづくり計画」に登載していなければならないということでもありますので、今後計画を見直す段階で新規のものや、先送りするものが出てきた場合、計画を変更する作業が出てきますが、理念としては変わっておりませんので具体的に表していきたいと考えていますが、そのあたりの文言の使い方や表し方などに対しご意見を賜りたいと思います。

- ・委員…「新市まちづくり計画」の中の（P31）「4．新市の地域別整備方針」の中で（1）地域構造の形成、地域拠点別整備方針としてそれぞれの地域に特性と課題があり整理されていますが、今回新しく策定する「総合発展計画」の中にはその点が記されていないのはなぜかお尋ねします。
- ・渡部企画調整課長（回答）
ご指摘の部分について基本構想のどの部分に入れ込んでいくのか課題ですが、構想自体が市全体を見ての記述ですので、地域別の良さや課題については基本計画の中に出てくる場合もあると思いますが、今後組み入れも考えてまいります。
- ・議長
地域の現状と課題があって、それを理解しないと計画にはならないのではないかと思いますので、前向きに検討してください。
- ・委員…基本理念的なものは今日の説明でわかった気がしますが、具体的にどのような方法でそれを進めていくのか漠然としています。具体性のあるところまで進めてもらい、特にこの点について話し合ってほしいと問いかけていたきたいと思います。
- ・渡部企画調整課長（回答）
基本構想という部分ですので、具体性があまり見えないというのは確かかもしれませんが、基になる「新市まちづくり計画」というある程度具体的なものがありますので、それを参考にいただければ、基本構想の記述については概ね方向付けですのでその点についてはご意見いただきたいと思います。
- ・委員…今までの説明の段階までは理解できたと思います。基本構想から基本計画へと進めていかなければならないものは進めていただきたいと思います。
- ・議長
今日の協議の中心は発展計画のうちの基本構想となりますので、実施計画など細かいものにつきましては、まだ検討中のものもありますし、来年1月ごろ提示してご意見をいただく予定ですのでご承知いただきたいと思います。
- ・委員…これから具体的に基本計画が示されて、どのように進行していくのか、どのように結果として現れてくるのか評価的な面も加えてもらえれば、市民も計画の進み具合がわかると思いますので、基本構想とは違いますがそういったことも今後考えていただきたいと思います。
- ・渡部企画調整課長（回答）
ご意見を伺いながら、わかりやすいものというのは当然ですので努力してまいります。基本計画につきましては、「新市まちづくり計画」が各旧市町議会の議決を得まして策定した計画ですので、それを大きく外してつくっていく訳にはまいりませんが、その後の国の施策方針転換や、本市として、もう少し力を入れなければならない部分が出た場合は基本計画に盛り込んでいきたいと考えます。地域の皆さんからいろいろな要望も出てくるのでそれらを検討し実施計画の少々の手直しの必要も出てくると思います。各地域の場所や数字などの具体的な実施計画は毎年ローリング（見直し）をしながら計画を実行してまいりたいと思いますが、それらについて、毎年の地域協議会にご相談して進めていくことをご理解ください。
- ・大庭参事（補足）
「新市まちづくり計画」の P42 の「第5章 新市まちづくりの基本施策」

という部分がありますが、これが「総合発展計画」の「基本計画」の部分にあたります。この部分の文章、文言の表現を膨らませながら基本計画を作成していかなければならないのですが、先程来ご説明のとおり逸脱できない部分があり、「新市まちづくり計画」に沿わなければなりませんので、この第5章を柱に肉付けをしていくことをご理解ください。

- ・委員…実施計画については毎年ローリングしながら事業計画を推進してまいると言われましたが、市民からすると進展がないというような声もあります。行政ですので市長の4年の任期で計画が変わるものではないと思いますが、毎年ローリングがあるために取り組みがいまいちで新鮮味がない気がします。

- ・渡部企画調整課長（回答）

基本計画の部分では具体的なボリュームではなくて、今後どのような方向付けで具体的に実施に向かっていくかという内容になりますので、ボリューム的なものは市の財源や国の支援など毎年変化しますので勘案しながら、ローリングしながらどれくらいのボリュームで実施できるのかを検討しながら進めてまいります。

平成18年度の事業内容〔本荘地区〕(案)について

- ・鎌田補佐（概要説明）

- ・鈴木振興課長（補足）

今回新規事業を、配付した資料のとおりまちづくり計画(案)に取り込んだわけですが、今後総合発展計画の実施計画との整合をとり、市の事業として位置づけるためそれぞれの担当課で追加した事業であります。そのことにより事業費が増える訳ですが、原則として「新市まちづくり計画」の総事業費の枠を超えるわけにはいかないもので、天井はそのまま新規事業を取り込んでいくことが大前提でしたので、ある程度、事業費の見直しなども行い、担当部局と調整をしていることをご理解いただきたいと思います。

- ・議長

課長の説明は、項目として頭出しした事業の削除はないが、部分的な変更や財源調整を行っているということですね。

では、ここで組合病院跡地の整備について皆さんの関心が高いようですので、現時点でお話できることを区長さんをお願いします。

- ・佐々木区長（回答）

本荘地域では大きな課題であります、駅前組合病院跡地の活用ですが、本荘地域の中核であり由利本荘市の中核を占める位置にありますので、この活かし方が由利本荘市発展の活力を生む可能性を秘めているため、大きな関心事であるのは当然だと思います。これは、「新市まちづくり計画」でありますので1市7町の議会で議決を得て、意見の一致を得ている訳です。その「新市まちづくり計画」では病院跡地事業の年次割りについては財源の調整もあり後半に位置づけられておりました。しかし我々本荘地域とすると長年の課題となっているのに、まちづくり計画後半の事業となるとかなり先のことに感じます。これを、何とか前倒しして事業着手出来ないか調整中であります。カギを握るのが「まちづくり交付金」というもので現在、国との交渉・協議を行っておりまして、この制度を利用し残りを合併特例債で補うことができれば前倒し出来るのではないかと協議しております。跡地利用の内容ですが、跡地地区まちづくり推進協議会、都市再生推進期成会から提案いただいた理念を生かし、(仮称)総合文化複合交流施設として美倉町の文化会館

を中心としたエリアとの整合をはかり連携をとった形で本荘のまちに活力を生むべく整備を進めてまいります。

- ・委員…病院跡地計画の会長を２年間務めさせていただきましたし、４８名の地域協議会委員の中にも病院跡地計画の委員を務めた方がいらっしゃいますので、注目されているかと思いますが、長い年月をかけてもなかなか実現できず今に至っており、１年でも、１日でも早く実現していただきたいと思っています。この計画が目に見える形で動き出していくと、この地域協議会の位置づけにもプラスになる案件だと思いますし、施策方針の「豊かな心と文化を育むまち」だけでなく、いろいろな方針に該当し、県立大学の活用のためのサテライトキャンパスなど複合的に、新市発展の中核になる事業だと思いますので、文化会館等既存の施設との連携なども予定されていますが、連携と考えるとまた計画が遅れるような気がしますので、先行して整備をしていくという位置づけを考えていただきたいと思います。

- ・委員…基本計画の中に子育て支援に関する項目が抜けているように感じます。組合病院跡地の施設に児童館の設置等の施設も考えていただきたいと思います。

- ・鈴木振興課長（回答）

今後、少子高齢化、男女共同参画、男女雇用機会均等などの中で女性の進出が求められる時代になりますので、学童保育を充実しながら、病院跡地の施設につきましては現在の本荘中央児童館の機能を持ち込むような計画で考えておりますのでご理解願います。

- ・委員…事業の実施計画に関しては、毎年ローリング(見直し)があると伺いました。今回、組合病院跡地の関係を早期に着工するよう、見直しをしていただく方法がないか皆さんに相談したかったのですが、いろいろなお話しも出てまいりましたので何らかの方法で早期着工の目処を立てて頂ければと思います。

今後の会議の持ち方を提案しますが、午後１時ころから開会してじっくりと皆さんの意見を伺ってほしいと思います。発言があれば連鎖的に関連した意見も出てくると思うので、今後時間に余裕のある会議を持っていただければと思います。

- ・委員…議事進行についてお願いします。これから意見を頂くことになれば、もう３０分や１時間では止まらないと思いますので、時間で打ち切って意見のある方は文章で提出する形がいいと思います。

- ・議長

会議の開会にあたり１７：３０までの予定でお願いしますと事務局より説明があり、予定時間の前でしたのでご質問を受けております。ご理解いただきたいと思います。また、この場の意見だけでなく書面で提出頂くのも良いかと思えます。

- ・事務局（鎌田補佐）

今回、短い時間の中で施設見学をさせて頂きましたが、次回は半日くらいの日程で様々な施設の見学と説明をさせて頂きたいと思います。次回の地域協議会の開催は、企画調整課から話のあったとおり「由利本荘市総合発展計画」の基本計画を案件として来年１月中に開催予定です。この中で、本荘地域の事業計画について提案がなされると思いますのでよろしくお願いします。

・議長

今回の皆さんから頂いたご意見等については事務局で整理し会議録として、委員の皆さんに渡してください。また、事前の資料について発送が遅いので、企画調整課とも調整をとってもう少し余裕をもって委員の皆さんに渡せるようにして頂きたいのと、資料の字が小さくて見にくいので、拡大するとか部分的に分けて作成して頂ければと思います。

次回の協議会は1月頃、基本計画の素案を出して皆さまのご意見を伺うことになるとしますのでよろしくお願いします。長時間ご苦労さまでした。

5 . 連絡事項について

- ・ 次回開催予定、内容について
- ・ 施設見学会の開催について

6 . 閉会(午後 5 時 2 5 分)

以下、後日意見として書面で提出あったもの

「由利本荘市総合発展計画 基本構想・基本計画(案)について」への意見

- ・ 少子高齢化対策は重要課題であることから、福祉事業と併せ、育児相談、学童保育、老人ケア、ニート対策等を具体的に樹立すべきだ。
- ・ 少子高齢化、福祉の問題を考えるに、地域住民のニーズは多様化してきており、「公の施設」の活用増大が大きなポイントであるとする。
- ・ 基本構想を以て基本計画の変更は難しいとの考え方は理解できるが、必要不可欠の条件も、今後やむを得ない場合も想定されるので、骨格は骨格とした扱いにとどめたらどうか。
- ・ 「地域に開かれたまちづくり」とあるが、どう展開する予定かを明確にすべきだ。これまで、行政は「町内会は自主団体であり、行政から制約をかけることはできない」と主張してきたが、昨今はやたらに町内役員の出席を求められることが多くなってきた(負担が大きくなってきた)。
- ・ 全ての項目、事項全てが本当に大切なことと考えるが、「(8)雇用の安定と若者の定住化促進」については、工業団地の有効活用、企業誘致、新規事業の開発は欠かせないとする。これらに対する対処方針を明確に出すべきだ。
- ・ 全体的には良くできているが、新鮮味がなく、これだという決め手がない(項目や文章をもっと絞るべき)。
- ・ この表現では、由利本荘市の進む先が見えない。
- ・ P 3 (4) で、由利本荘市を「県南西部」としているが、市民、県民から見た位置づけはどうか。
- ・ 県立大学設置時点と数年経った現時点での由利本荘市としてのスタンスが、どう変わっているかに言及すべきだ。
- ・ 基幹産業を農業としているが、具体的に J A の施策はそうっていないと感じられる。高齢者が担う農業に未来はないと考えることから、兼業農家の育成について言及すべきだ。
- ・ 人口と定住問題について、旧本荘市の考えは「微増」であったが、今回は「大幅な減」と設定している。これにより、策定のスタンスが大きく違ってくる

- と考える。基本理念を明確にすべきと考える。
- ・ Uターンだけでなく、Aターンにも力を入れるべきだ(地元にいる跡取りのいない高齢者の願いである)。
 - ・ もっと多くの人が仕事に就ける環境が必要であり、「ものづくり」、「勉強の場」、「ボランティアを可能とする」、明るい未来、夢のある由利本荘市にしてみもらいたい。
 - ・ 地域のまちづくりの中で、合併した一市七町の市民交流を創意を凝らして長期的にやる計画を考えるべきだ。
 - ・ 市内は病院、老人福祉施設、コンビニ、スーパーが賑わっているが、休日は市内に人の動きがあまり見られない。その原因を追及し、活性化対策を打つべきだ。
 - ・ おざなりな教育でなく、子ども達や父母の意見も行政サイドで良く聞く体制づくりが必要だ。
 - ・ 生涯学習は大きな課題であるが、多くの人たちは理解しておらず、また「自分達には関係がない、時間がない、興味がない」等との考えから、そっぽを向いている感じがする。初歩的段階からの再取り組みをした方がよい。
 - ・ 発展計画という文言のみの表現だけでなく、実践計画も真剣に考えるべきである。
 - ・ イメージを提示するため、このような表現・文言になるのであろうが、可能な限り数値目標を入れるべきだ。
 - ・ 市民が最も関心のある「事業」については、基本構想及び基本計画の決定を受けた後に作成すべきものとする。
 - ・ 平成17年度は合併前の状態を軸にしてまず執行しながら、基本構想、基本計画は次年度をにらみ策定すべきであり、そうした経緯の中で、詳細な「新市まちづくり計画」を策定するという選択肢もあるのではないかと考える。
 - ・ 総合発展計画の進捗、評価を市民に公開すべき(PDCAサイクル、5W1Hのような手法により責任と権限を明確にすべきだ)。
 - ・ 基本構想については、異議なし。
 - ・ 組合病院跡地と現文化会館を含めた総合的な開発計画については、前倒しする方向でローリングをお願いしたい。
 - ・ 組合病院跡地に、ぜひ新市の顔として、市民が気軽に利用できる「文化・交流の場」として、こども館、図書館、音楽ホール、コミュニティ放送局などが、まちの中にできることを大いに期待している。
 - ・ まちづくりの目標は、「新市まちづくり計画」P25～29の7つの柱の後にある「地域の住民自治組織(コミュニティ)の強化」、「開かれた行政の推進」、「住民と行政の協働によるまちづくり」というサブタイトルのような具体的なものにしたい。
 - ・ 子育て支援については、子どものことを第一に、親子関係を重要と考えた計画にして欲しいし、家で子育てをしている人への支援も考慮して欲しい。
 - ・ 秋田県は人口が減少していると聞くが、老人福祉にばかり目を向けるのではなく、「子育て中の方々」にも支援を行って欲しい。たとえば、若い人の利用可能な公営住宅を造って欲しい。
 - ・ 管理栄養士を中心として栄養士を配置し、子どもから大人までがおいしく、食育を体験できる場所があればよいと考える(由利本荘市でなければ食べられないものがあると、いろいろなところから人が集まると考える)。
 - ・ 3項目の基本理念、それを実現するための7項目にわたる目標、新市の骨格を造りあげるために4プロジェクトを立ち上げることを10年間の計画骨子

- とすることについては、基本的に支持をする。
- ・基本構想やまちづくり計画が市制施行8ヶ月を経ても変化がなく、合併協議会で作成した計画と全く同じでは、進捗がないと言っても良いのではないか。目標や情勢について、修正があっても良いのではないか。
 - ・合併に向けた、住民意向調査が平成15年4月に実施されたが、どう網羅、反映されているのか明確にした方がよい。
 - ・新市運営後の市民要望の変化についても考慮すべきである。
 - ・各論ごとのまちづくりの考え方が総論的であり、わかりにくいことから、もっと現実的な感覚での対応を求めたい。
 - ・C Iづくりについては、横文字である取り組みづらい感じであったが、市民の地域の枠を超えた一体性であり、当面の急務である。
 - ・田や土地の利用計画が説明されたが、農、商、工の分野で「～をします。」、「～を進めます。」というスタンスが目立つが、スーパーの進出や県立大学の開学などは市民の活性化(地域にとっては異常な伸びを見ることもある)を呼んでいる。したがって、前述のスタンスは、今後、行き詰まるのではないかと考えられる。土地利用、商業、農業の現実的な展望を分かりやすく、説明(記述)すべきである。
 - ・財政計画の中で、人件費の問題についてもっと突っ込んだ議論をすべきだ。
 - ・資料1-1中の「まちづくり計画の新規、廃止」については、1/10～30までの対応となっているが、基本構想と整合性はあるにしても、これと切り離す形でじっくり協議した方がよいと考える。
 - ・基本構想、基本計画については、その位置づけ等について、もう少し詳しく、分かりやすく説明してもらいたい。
 - ・「活力とにぎわいのあるまちづくりについて」の中に、各地域全ての町内会あるいは部落会をコミュニティ自治組織として明確に位置づけ、市行政のネットワークとして「住民からの発想、提言」を汲み上げる手段を構築すべきと考える。
 - ・新市は、旧本荘藩、矢島藩、亀田藩が合併した全国でも珍しい形態だと思うが、それだけに古来からの人々の暮らしの中では、それぞれ独特の歴史、伝統、しきたり等をはじめ、地域環境の相違が大変大きいと考える。従って、合併により不安を感じている住民も少なくないことから、8つの地域の特色を活かし一体的に成長、発展していくことが重要だと位置づけが必要であり、明確に表現すべきである(新市を構築する過程での住民理解の根幹に関わる重点視点である)。
 - ・全体的に基本構想については良くまとめられているが、まちづくりの目標については各項目ごとにできるだけ抽象論でなく、また従来型でなく、特に地域に特徴的なもので具体的なサブテーマを設け、市民に分かりやすい平易な文章で作り上げるべきである。
 - ・組合病院跡地の計画は本荘地域だけの問題ではなく、由利本荘市全体の問題として考えるべきだ。
 - ・「組合病院跡地と(現)文化会館を新市の顔となる総合文化施設として整備する。コミュニティセンター(多目的ホール、こども館、研修室、情報提供システム)」にあるこども館については、現在由利本荘地域においては、常時子どもを自由に遊ばせることのできる空間が少なく、特に冬期間など屋外で遊ぶことができなくなる期間が問題となっている。近隣の市では遊戯室があるが、乳幼児と小学生などが同じ部屋であることから危険であり、このこども館においては、年齢別の遊技エリアの設置を希望する。

また、仙台市子育てふれあいプラザ「のびすく仙台」のような複合施設があると、大きな子育て支援になると考える（別紙）。

- ・「活力とにぎわいのあるまちづくり」について
 - ）市の顔とも言うべき、羽後本荘駅周辺の整備に力を入れた方が良く、今のままではあまりにもお粗末すぎると考える。
 - ）少子高齢化が本市では顕著であり、街に目に付くのは高齢者ばかりでにぎわいが感じられない。理由の一つとして、働き盛りの20～40あるいは50代の層が、休日に憩いの場として使える公園やその他文化施設が少ないことが上げられる。
- ・「恵まれた自然と安らぎのある環境共生のまちづくり」について
 - ）豊かな自然に親しむための環境整備をお願いしたい。休日には街を歩く人が増えるような、人々が歩きたくなるような、緑や花を整備したまちづくりを希望する。また、河辺におりやすい親水公園などがあれば、それにより遠出をすることもなくなり、自動車の排気ガスの低減にもつながる。
 - ）リサイクルやゴミの分別がラフすぎることから、市としてはもっと考慮した施策を展開した方がよい。
- ・「豊かな心と文化を育むまちづくり」について
個人的な意見だが、市民の文化レベルが低すぎる。
 - ）たとえば、単身者で本荘が地元でない者は地域住民とのふれあいの場をなかなか見つけられない。高齢者のサークルはあるようだが、若者向けのものは少なく、人間関係を広げることができていない。仕事が多忙であることもあるだろうが、東北人の特性なのか、閉鎖的な街、住民だと感じる。
 - ）仕事に疲れた心をいやすような場がなくては、豊かな心と文化を育むまちづくりは難しいと考える。
- ・「心ふれあう情報と交流のまちづくり」について
 - ）ＣＡＴＶを早急に整備してもらいたい（ＴＢＳがないことで、情報はかなり限られていると感じる）。
 - ）書籍を始め必要な情報が手に入らず不満である。
雑誌や漫画等の娯楽雑誌は揃っているが、学術書やＩＴ関連の本、最新刊が手に入りにくく不便だ。
 - ）「男女共同参画社会について」であるが、本荘レベルの規模では難しいと考える。無理をせず、働く男女の比率を加味した目標をまず設定することが必要である。そうでない場合、そのしわ寄せは少数の働く女性に来て、より一層多忙となる懸念がある（男性の側からだけではなく、女性の参画も踏まえ、計画を策定すべきである）。

「平成18年度の事業内容〔本荘地域〕(案)について」への意見

- ・公営住宅の充実、既存の位置も含む街区の活性化と併せ考えるべきだ。
- ・「豊かな心と文化を育むまち」における施設の充実計画についてはよろしいが、心のあり方の指導にも力点を置き、必要に応じて「保護者教育」も考えるべきだ。
- ・活字のみでは現場理解ができないので、資料として「位置図、略図」等を添付すべきである。
- ・停車場東口線整備とあるが、現状の駅前発展開発と併行しなければ、駅前の活性化に水を差す結果になってしまう。

- ・事業計画(案)については、多岐にわたり要望の数々が計画に反映されており、異議はない。
- ・市民と行政の考え方、将来を見据えた事業計画のあり方については、まだまだ全面的な一致は難しいと考える(今後とも協議が必要)。
- ・地域協議会などの機会に当局の色々な施策に対して説明をしてもらう事は、相互理解を深める意味で非常に有意義である(真摯な質問とその結果を大切にしていきたい)。
- ・通学路について考えてくれたことは良かったが、他の学校への支援も同様をお願いしたい。
- ・通学路やアスベストについては、子どもの達安全を考えると当然であり、一番早く取り組んでいただきたい。
- ・本荘体育館の改築については、広さ、控え室の確保、観客席のつくり、駐車場の確保など十分検討して欲しい。
- ・本荘体育館の位置については国療跡地がよいと思うが、スポーツ施設としてだけではなく、災害時の避難場所にも活用できるような施設にすべきだ(しかし、中途半端な施設はだめ)。
- ・組合病院跡地と現文化会館を総合文化施設として整備するらしいが、図書館の建て替えも考えて欲しい(エレベーターもない2階建てでは子どもやお年寄りにとって大変不便である)。

その他の意見等

- ・第2章3項(2)号に「林業の振興」とあるが、当協議会に林業団体(例えば森林組合など)の代表者が含まれてないことから今後補充すべきである。
- ・本荘地域協議会委員は、本荘地域(旧本荘市)のために任命されたことから、由利本荘市総合発展計画に対しての意見聴取はどうかと考える。他地区の委員も含めた合同会での報告をしたらどうか。
- ・主要施策の概要のうち、少子化対策である保育料の低水準化や延長保育などの支援については幼稚園に対しても検討してもらいたい(同じ子どもを育てる場として、同じ支援が必要と考える)。
- ・資料を委員に送付した上で、事前に意見を書いてもらい、市で取りまとめた上で会議の前に郵送すれば、皆さんの考え方が理解できて話し合いも良く進むと考える。
- ・組合病院跡地の計画は本荘地域だけの問題ではなく、由利本荘市全体の問題でもあり、協議会委員は本荘地域の発展を願い会議に臨む立場であることから、この会において十分に審議することが必要と考える。
- ・4回では十分な協議ができないことから、これとは別に臨時協議会を開催し、個別の問題を審議していく事を検討してもらいたい(個別の協議、検討により、全体の理念がどのように働いているのかを実感できる場合もある)。
- ・会議の持ち方としては、各課題を設定して少人数委員の専門分野ごとに検討してもらうことが全員の発言に結びつくし内容が深まると思う。
- ・会議時間が極めて短く、発言も一部の人に止まるようでは儀礼的であり、地域協議会の存在価値が問われると考える。
- ・鶴舞会館や保健センターなどの施設の老朽化により防災上の危険性が懸念される(地震発生時、どの施設を利用すればよいか心配である)。
- ・新しい施設をもっと利用客が増えるよう努力願いたい。
- ・地域の住民自治組織の強化については、合併協の資料の「おさらい会」をし

た方がよいと考える。

- ・ 現在、市職員は臨時職員も含めて、約 1 , 9 0 0 名と聞いているが、これは行財政計画の大きな柱である。
臨時職員の問題については、合併前にマスコミにも報道されておりフタをするべきではなく、早い機会に「基本的な考え方」を関係者及び市民に説明し、理解を得ることが大事だと考える。
- ・ 「合併協の資料は各市町の議会で議決しており、変更するものではない。」というような大上段の構え方では、委員が何をすべきかという戸惑いを感じる。
- ・ 協議会には、諮問に対して答申をする権限が与えられているが、同じ諮問に対して、それぞれ 8 つの地域協議会で異なる答申をした場合はどう対応するのか。
- ・ 早い機会に基本構想とまちづくりの分散会を開き、一定の整理を図った方がよいと考える。手法として、各委員からの意見を踏まえ市がポイント的に説明し、「この件はこれだ」と押さえる方式にしたらいと考える。
- ・ 第 1 回協議会では、「市議会議員は様々な経緯の中で構成メンバーに入っていた。」と説明していたが、市議会議員については、変更手続きもなく、結果的に元議員 3 名が出席、委員も 5 0 名から 4 8 名になっている。当初の説明と食い違っているのではないか。
条例で拘束されていると言いながらも、何の説明もなく、このような粗末な対応はいかかなものかと考える。
- ・ 委員への資料配付をもっと早くし、協議の課題(変更されても良い部分)を具体的に会議前に提示する必要があると考える。
- ・ 協議会は堅苦しすぎて意見を言いづらく、多くの人を呼んでもほとんど意見を言う時間がない。意見を述べてもまちづくりに反映されるのか分からない部分がある。
- ・ 多くの委員が忙しい中、何時間も時間を割いてきているのだから、行政は、協議会を開催することで自己満足することのないようにしてもらいたい。